

世界遺産白川郷和田家のデジタル・アーカイブ化

大澤 浩子*1

文化財などのデジタル・アーカイブズの活用が、資料情報から多様な活用へと発展し、利用面が重視されるようになってきた。特に資料を利用する時、これまでのデータベースによる管理の他に、総合性と文脈性と構造的な資料管理の必要性が指摘されだした。そこで世界遺産和田家を中心にして、総合的な資料の管理とそれについて組織性のある抽出利用を可能にするデジタル・アーカイブの構成についての研究を報告する。

<キーワード>文化情報、デジタル・アーカイブ、世界文化遺産、教材、オーラルヒストリー

1. はじめに

今では世界遺産として知られている白川郷であるが、ダム開発や高度経済成長とともに、合掌造りは生活に合わない、住みにくい建物だということでどんどん取り壊された。そんな中で村の文化である合掌を残していかなければいけないという気風が起り、1971年に住民が中心となって「荻町の自然環境を守る会」という団体が発足。住民の取り組みが評価され岐阜県大野郡白川村荻町、合掌造り集落は1995年12月9日に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界遺産リストに登録され現在に至っているという経緯を持つ。

資料調査、収集も必要であるが、歴史的な背景、流れの中に存在する文化財のデジタル・アーカイブ化をするためには、実際に世界遺産に住み、合掌を守っている人にお話をさせていただき、その思いを記録、保存し後世に残していくことこそが重要であると考えた。

このため今回、白川郷の中でも最大の規模をもつ和田家のご当主にお話を伺い、デジタル・アーカイブ化の研究を行った。

2. 研究目的と記録調査の方法

(1) 研究目的

①歴史的背景を持つ文化財のデジタル・アーカ

イブ化のあり方と構成

歴史的背景を持つ文化財をデジタル・アーカイブする場合、撮影、調査を行った日のことだけを残すのでは不十分である。世界遺産白川郷和田家は、世界遺産に登録される前やその後についてのこともデジタル・アーカイブ化し残していく必要がある。

また、近年行われているデータベースによる管理が主流であるが、それでは歴史的流れを持つ文化財の繋がり、文脈がなくなってしまうがちであるので、あり方と構成について研究する必要がある。

②資料の体系的な利用も配慮した情報管理

デジタル・アーカイブ化の多くは、主として各情報のデータベース化が行われており、その体系的な情報利用が一般的に困難な状況である。このため、利用者の理解しやすい情報の体系的な管理ができる方法の研究が重要となっている。

③オーラルヒストリーを使用したデジタル・アーカイブの作成

資料の調査、収集は必要であるが、世界遺産に住み、それを守っている人の声を記録することが歴史的流れを持つ文化財にとって必要であると考えた。ご自身の体験をお話していただき、オーラルヒストリーが中心となったデジタル・アーカイブを作成する。

*1 OZAWA, Hiroko 岐阜女子大学

(2) 記録調査の方法

①和田家ご当主へのインタビュー、説明を依頼

和田正美氏に江戸時代から続く和田家、村の状況、結制度、茅場、現在の白川郷について、当主として、またかつて勤めた村長経験者として歴史的背景をもとに話していただいたものをオーラルヒストリーとして記録した。この記録は、村の歴史、また和田家の歴史、さらには結制度等の白川郷の特色のある生活文化、産業等多方面に関連した文化資料となった。このオーラルヒストリーを用いて、白川郷の歴史、現状を見る新しいデジタル・アーカイブの開発が可能になってきた。

和田正人氏に現在の白川村の様子、和田家の様子を各地点に立って説明をしていただいた。これは、和田正人氏に各場所でそれぞれの状況について話をしていただいたので、和田正美氏の歴史的背景をもとに話していただいたものとは違い、現状を中心にした説明となった。

この両者の融合によって、歴史、及び現状を含めたオーラルヒストリーを中心にしたデジタル・アーカイブの構成が可能になった。

②地域における生活文化の資料調査・収集（動画、静止画、360°で撮影）

360°撮影には、EGG Photo360°を使用。

③お話が主となったデジタル・アーカイブの作成

①、②を融合されたデジタル・アーカイブ型オーラルヒストリーの作成

3. 白川村、和田家の概要

(1) 白川村の歴史

1995（平成7年）、岐阜県白川村荻町の合掌造り集落は、ユネスコの世界遺産に登録された。白川村は、険しい地形と、厳しい気候風土によって独特の生活様式が形成され、貴重な建造物、水田や畑、山林等環境までを含めて保存されている。なかでも切妻合掌造り家屋は日本の大型木造住宅の典型を示している。

(2) 和田家の歴史

和田家は過去帳によると、江戸時代中期から後期に建造されたと推測され、白川村に残る合掌造りの中で最も規模が大きく、格式の高いつくりを持っている。

その家系は1573年（天正初年）に始まり、当主は代々“弥右衛門”の名を継ぎながら、江戸時代には名主や組頭を勤めていた。江戸時代、交通の要地には治安警察的な役割を果たしつつ関税の徴収も行った「口留番所」という施設が設置され、和田家当主は天明・寛政の頃から牛首口留番所の役人としての任務にも就いていた。

かつての白川村の人々は、鉄砲の火薬の原料となった「焰硝」の製造によって貴重な現金収入を得ており、和田家は元禄年間から明治時代に至るまで、焰硝の製造と取引によって大きな富を築き、明治時代には当主が初代村長に選ばれている。

和田家は、白川郷が世界遺産となった1995年に国指定重要文化財に指定された。2005年に屋根葺きを行った。

和田家外観を図1に示す。



図1 和田家外観

(3) 和田正美氏

和田家第17代の当主。村長の経験を持つ。この地方の多様な情報について話せる人である。

(4) 和田正人氏

和田家第 18 代の当主。

岐阜県歴史資料館報 21 号「和田弥右衛門文書よりー焔硝製造に関わってー」、同 22 号「和田弥右衛門文書よりー牛首口留番所に関わってー」、等を出筆。

2006 年 4 月に岐阜女子大学特別客員教授に就任。

4. 撮影記録

和田家ご当主の和田正人氏に、お話し(オーラルヒストリー)を貴重な資料や建物等と併せてしていただき、動画・静止画・360° 静止画等で撮影記録を行った。今回の撮影では、城山展望台から眺めた白川郷や和田家の位置関係と同地点でみた場合等一つの撮影資料に対して、様々な方向から記録を行った。

さらに、和田家では非公開とされている(2006. 9 現在)復元された牛小屋や、式台つきの稀有なつくりをもち、江戸時代には役人等身分の高い者に利用されていたという玄関も撮影のために特別に公開していただき、記録を行うことができた。撮影記録を図 2~4、撮影記録リストを表 1 に示す。



図 2 城山展望台から白川郷の歴史



図 3 和田家 玄関



図 4 和田家 牛小屋

表 1 撮影記録リスト

撮影場所	撮影(記録)内容
城山展望台	白川郷の歴史 合掌造りの特徴と構造 白川郷および和田家の位置関係
和田家主屋前	和田家の歴史 家屋の特徴 合掌造りと「結」制度 復元された牛小屋
稲架小屋・板蔵	屋根葺きや茅、焼畑
和田家周辺	主屋を中心とした位置関係
和田家内部	合掌造りの構造 屋根裏の役割 和田家所蔵資料(焔硝関係、民具ほか)

5. オーラルヒストリー

オーラルヒストリー (oral history) とは、直訳すると「口述歴史」である。『新英和中辞典』(研究社)では、「口述歴史(資料)《歴史的重要人物による口述証言の録音;それから起こした資料》」とされている。

また、アメリカのオーラルヒストリー研究分野の第一人者といわれる Thompson は、著者名でもある『記憶から歴史へ』とすることだし、「一般的に、あらゆる種類の人々の人生経験が、生の史料として歴史研究に使われるようになれば、新しい方向性が歴史に与えられる。」としている。

さらに、日本における政策研究のオーラルヒストリーを、先駆的に多数進めている御厨は、「公人の専門家による、万人のための口述記録」と定義している。

オーラルヒストリーとは、個人や組織の歴史や経験(記憶)を聞き取り、記録を作成して保存し、利用に供すること。さらに、後世に伝えることを意味する。

今回、2000年5月に行った、和田家前当主の和田正美氏と本大学副学長の後藤によるインタビュー形式の対談と、2006年9月に行った、和田家当主の和田正人氏の説明をオーラルヒストリーとして使用する。

6. オーラルヒストリー型デジタル・アーカイブ

(1) データの構成

① 和田正美氏オーラルヒストリー

映像資料、文字資料、関連資料の3つの資料で構成する。図5に示す。

画面左側に、和田家前当主の和田正美氏と本大学後藤副学長による対談の映像資料、中央には対談映像を文章化した文字資料、右側には対談から出た言葉をより理解しやすく説明するための資料を関連資料として配置する。

ストリーミングコンテンツ作成ソフトとしてサイバーリンク株式会社の「Stream Author」を使用。実際に作成したものを図6に、関連資料から一部抜き出したものを図7に示す。

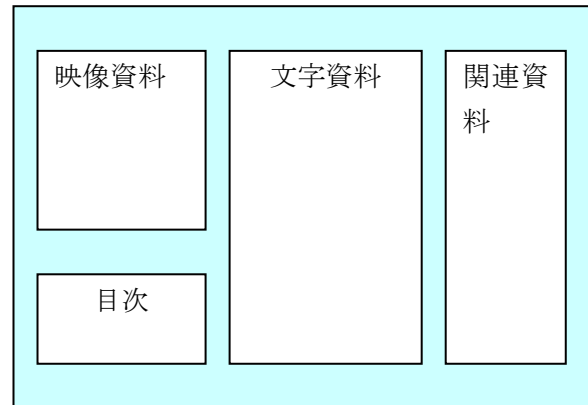


図5 データ構成

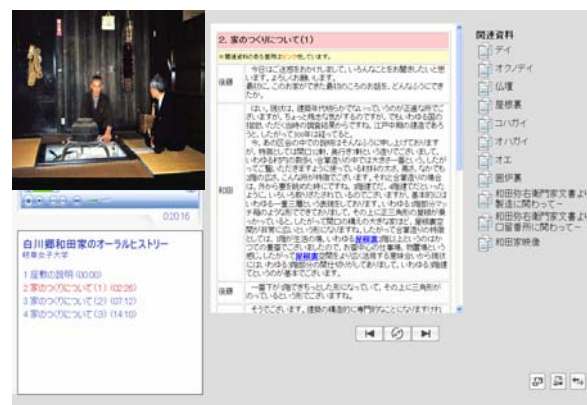


図6 和田正美氏オーラルヒストリー



図7 オクノデイ(関連資料抜粋)

②和田正人氏オーラルヒストリー

映像資料、静止画、文字資料、関連資料の4つの資料で構成する。図8に示す。

画面左側に、和田家当主の和田正人氏の映像資料、中央には映像資料を記録中に撮影した静止画、その下に文章化した文字資料、右側にはより理解しやすく説明するための資料を関連資料として配置する。実際に作成したものを図9に示す。

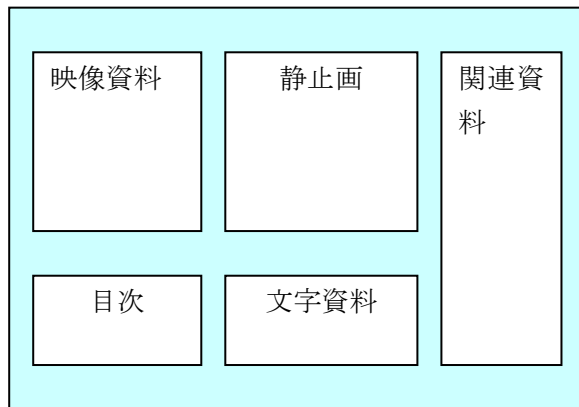


図8 データ構成



図9 和田正人氏オーラルヒストリー

(2) オーラルヒストリーを中心にしたデジタル・アーカイブの効果と資料性

まず、和田正美氏のオーラルヒストリーであるが、オーラルヒストリー型デジタル・アーカイブのデータ構成に映像資料、文字資料、関連資料の3つを挙げた。それぞれ独立した資料であるが、一画面上に配置して並べることにより、各資料の欠けている点を補う二次資料として

の役割も持っている。

次に3つの資料の持つ効果、補っている点について説明する。

映像資料は、話している時の表情、声の大きさ、言葉と言葉の間、発音等から、質問に対し当主がどんなふうに対応しているのか等臨場感が伝わる。文字資料は、映像資料を文章化しているので文字だけを読みたい場合や、またその地域独特の聞きなれない言葉は映像を見ているだけでは分からないので、映像資料とは違う新しい発見ができる。関連資料は、映像資料や文字資料では足りない部分を補う役割を持っている。

次に和田正人氏のオーラルヒストリーであるが、上記の和田正美氏のオーラルヒストリーと違う点は説明を記録している時に静止画撮影を併せて行ったことである。データ構成は映像資料、文字資料、関連資料の他に静止画を追加した。説明対象の方を見ながらお話をさせていただいたので、説明対象を静止画に収めることで現在の白川郷の様子が分かる記録となった。映像資料の隣に静止画を配置することで、説明とその時の様子を一緒に見ることができる。映像の音声を耳で聞きながら静止画を見てほしいと思う。

このようにオーラルヒストリー型デジタル・アーカイブは、和田家当主のお話を中心に作成している。大切な記憶を記録し、さらに分かりやすく伝えるために必要なものを配置することで話の流れ、繋がりを知ることができる。歴史的背景を持つ資料の繋がりを明確にすることが可能になった。

オーラルと各種資料を用いた、文化財、文化活動等のデジタル・アーカイブは次のようにまとめられる。

- ①資料の構造化、組織化
- ②二次情報としてのオーラルの役割
- ③現状の説明と関連資料の活用(話の参考としての活用)

- ④歴史的背景と関連資料の繋がりを明確にし、それをふまえた上での活用
- ⑤情意的情報を持つデジタル・アーカイブの構成

このような歴史的な文化財、その中で生活されている和田家について、歴史的背景と現状の二面性をもつ内容のデジタル・アーカイブとして構成することができた。

7. おわりに

地域文化資料のデジタル・アーカイブ化は、これまで一般に資料情報のデータベース構成が主であった。情報の取り出し方が1つの資料情報を抽出して利用する方法が多く、デジタル素材を広く利用する教育でも一般に1つ1つの資料を抽出選択し利用しているのが現状である。

このため、1つの文脈を持ち歴史的背景をもつ地域文化資料も同じように抽出選択し利用しているので、歴史的背景の流れや繋がりが抜け落ちてしまい、その地域文化資料に適した資料の取り出しができないのが課題であった。

後藤春彦氏も、『まちづくりオーラルヒストリー』として新しい展開をされている。

そこで今回、世界遺産白川郷の和田家を中心にデジタル・アーカイブ化を、和田家の当主等に協力を依頼し、研究を進めた。その結果、最初の目的の1つであるオーラルヒストリーを用いた資料の体系的な情報の構成を行った。オーラルとしては和田家、白川郷の歴史的な背景をもとにお話していただいたオーラルヒストリー、世界遺産としての地域状況についての二面からオーラルヒストリーを用いたデジタル・アーカイブを構成した。

このことは今後、オーラルを用いたデジタル・アーカイブの開発にあたって、1つの体系ではなく、いろいろな視点からのデジタル・アーカイブを構成し、目的によりその視点を選択

し利用できるような情報体系の構成の研究の基礎となるととらえる。

謝辞

この論文の作成にあたっては、後藤忠彦教授の指導、谷里佐講師の協力、また和田家前当主和田正美氏、現当主和田正人氏によるオーラルヒストリー、貴重な資料の提供をしていただいた。また岐阜女子大学文化情報研究センターが所蔵している和田家資料を活用させていただいたことに厚く感謝の意を表します。

文献資料

- 1)大澤浩子 (2006), 文化活動等のデジタル・アーカイブ化のための多方向同時撮影について—共同利用を目的とした映像情報の記録—, 日本教育情報学会 第22回年会, 年会論文集22, pp 258-259
- 2)谷里佐 (2006), オーラルヒストリーにおける資料の構成と組織化に関する研究, 岐阜大学 (修士論文)
- 3) 谷里佐, 和田正人, 杉山博文, 谷口知司, 地域資料「白川郷」のデジタルアーカイブ化について(1) ~和田家関連資料のデジタル化~ vol.2, 2000, pp 38-42
- 4)白川村史編さん委員会 (2001), 新編白川村史上巻, 第一法規出版, 2001, 東京
- 5)白川村史編さん委員会 (2001), 新編白川村史中巻, 第一法規出版, 2001, 東京
- 6)白川村史編さん委員会 (2001), 新編白川村史下巻, 第一法規出版, 2001, 東京
- 7)御厨貴 (2002), オーラル・ヒストリー, 中公新書, 2002, 東京
- 8)後藤春彦, 佐久間康富, 田口太郎 (2005), まちづくりオーラル・ヒストリー, 水曜社, 2005, 東京